

社会科 学習指導案

1 単元名「世界恐慌と日本の中国侵略」

2 単元について

(1)本単元は学習指導要領の歴史的分野内容(5)の力、「近現代の日本と世界」を取り扱う。第一次世界大戦後、大いなる反省から平和を求め多くの人たちが努力した結果、軍縮の方向に世界が流れた。しかし、世界恐慌というかつて経験したことのない経済危機に対して二通りの道(アメリカ、イギリスの対応とドイツ、イタリアのファシズムの台頭)に別れていき、そのことが第二次世界大戦の遠い原因になってしまった。わが国日本も、例外なく世界恐慌の波がおしよせ、呑み込まれていったのである。わが国の社会生活の不安、労働争議や小作争議の激化、財閥の成長、政党の無力化などを背景として軍部が台頭してくるようになった。こうした状況下、わが国は広大な大地を求め中国へ進出していくこととなり、日中戦争につながっていくのである。戦争は当事者間のみでなく、その複雑な国際情勢の背景として引き起こされる。その原因を世界の歴史の中で多角的にとらえさせることによって、本質的な理解が出来るようにする。そのためには、知識の注入に終わることなく、生徒の持っている多様な感性を揺さぶるとともに、主体的に授業に参加していく教材を構成する。

本単元は世界の歴史を背景にして昭和初期から、日中戦争突入までのわが国の歴史のあらましと、戦争が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させるのがねらいである。

(2)生徒にとっても近・現代史は世界各国の利害関係が複雑に絡み合い、理解しにくいところである。そのためにもより一層、生徒が各国の立場、その当時の政府・国民の立場で物事を考える必要に迫られる。特に本単元の前半部分では、グループ調べ学習の後、簡単なロールプレイングを行い、世界恐慌後の世界の国々の立場になってせりふを考え、主張することによって、理解を深めると同時に思考力を高める。更に様々な視点からの調査内容に耳を傾けさせ、世界恐慌後の歴史的事実を多面的にとらえさせたいと考えている。

3 単元の指導計画

(1)指導目標

世界恐慌以降の欧米諸国の政治、政治経済の変化とその特徴を理解させる。

世界恐慌が日本に影響を与え、深刻な経済不況が社会不安を生み出し、やがて軍部の台頭につながり、政治、外交に大きな影響を及ぼしたことを多面的に考えさせる。

(2)評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
各国の恐慌に対する政策や、世界がファシズムと反ファシズムで対立を深めていく様子を意欲的に調べようとしている。	深刻な経済不況が社会不安を生み出し、やがて軍部の台頭につながり、政治や外交に大きな影響を及ぼしたことを多面的に考えようとしている。	世界恐慌から日中戦争までの国の内外の様子を、様々な資料から読み取り、自分なりの言葉でまとめようとしている。	世界恐慌から日中戦争までのわが国の歴史のあらましを世界の動きと関連させて理解し、その知識を身に付けている。

(3)単元の指導計画(5時間扱い)

時	学習活動・学習内容	評価規準
1	世界恐慌 ・世界恐慌の原因、その様子を理解する。 ・グループごとに世界恐慌に対する各国(アメリカ、イギリス、ソ連、ドイツ、日本)の対応を図書資料やインターネットを活用して調べ、発表する。	世界恐慌の概要が理解できる。 (理解) 世界恐慌後の各国の対応を意欲的に調べあげている。(意欲)
2 本 時	世界恐慌 ・世界恐慌に対するグループでの各国の対応についての発表を聞き、学びあう。 ・各国の様子を聞き、恐慌後の日本の進むべき道を考える。	世界恐慌に関する資料を活用し、分かりやすく説明している。 (表現) 当時の日本政府の立場になって、恐慌後の日本がとるべき道を考えることができる。(判断)
3	欧米の情勢と日本 ・イタリアとドイツから、ファシズムの実態を理解する。 ・ファシズムの持つ問題点を考え話し合う。	ファシズムによる帝国主義政策が第二次世界大戦へと発展することに気が付く。(理解)
4	日本の中国侵略 ・満州事変から国際連盟脱退までの経緯を理解する。 ・軍部が政治家暗殺事件をひきおこし、軍部独裁路線が確立されていく様子を理解する。	満州事変をきっかけに国際社会から孤立する日本、その経緯を意欲的に調べようとする。 (意欲)
5	日中全面戦争 ・日本の中国侵略の実態と中国民主の抵抗を理解する。 ・当時の社会や国民生活の状況を通して、国民の思いや考えを推察する。	戦争拡大に伴う、日中両国の犠牲の大きさについて、考えることができる。(思考)

4 本時の学習

(1)本時のねらい

世界恐慌に対する各国の政策について、各班の発表を聞き理解しあう。

世界恐慌の影響を受けた日本の進むべき道を考え、友達を意見交換をしながら深め合う。

(2)展開

	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価	資料
導 入	1 1929年10/24(木)の株価の大暴落、その後の世界の様子についてロールプレイを見ながら理解する。 ・銀行や工場の倒産 ・失業者の増大 ・資本主義国に波及効果	・ニュース形式で臨場感を出し、発表するようにさせる。 ・友達の発表を聞き、世界恐慌、恐慌後の世界の様子に興味をもたせる。		ウォール街の 現在と 世界恐慌 当時の 写真
世界恐慌に対し各国はどのような打開策をとっていたのであろうか？				

展 開	<p>2 学習班で調べた世界恐慌に対する各国の対応について班の代表者がインタビュー形式で発表する。</p> <p>アメリカ・・ニューディール政策 イギリス・・ブロック経済 ソ連・・5カ年計画 ドイツ・・ファシズム</p> <p>・その際、聞く側は発表の要旨をワークシートにまとめる。</p> <p>・発表を聞いて、なぜ世界各国の対応に違いがあったのか理解する。</p> <p>3 日本の恐慌の影響、当時の状況を発表する。</p> <p>・発表を聞いて、恐慌による経済的混乱と、東北地方の飢饉により、日本が深刻的な不景気に陥ったことを理解する。</p>	<p>・発表者に、わかりやすい説明が出来るよう事前指導をしておく。</p> <p>発表を聞き、重要な箇所を自分の言葉でまとめることができる。(理解・技能)</p> <p>・日本の当時の状況を理解し、恐慌脱出のための意見がもてるようにする。</p>	<p>発表用資料</p> <p>ワークシート</p> <p>日本の恐慌を伝える新聞</p> <p>東北地方の写真</p>
<p>日本は恐慌から脱出するために、満州を勢力下におくべきである？ (日本の進むべき道は?)</p>			
ま と め	<p>4 日本の国内で議論されていた「満蒙問題」を提示する。</p> <p>石原莞爾陸軍参謀の考え 「満蒙を勢力下におくべきである」 石橋湛山の考え 「満蒙を放棄せよ」</p> <p>・2つの意見をそれぞれの立場になって、代表の生徒が考えを発表する。</p> <p>・どちらの意見に共感するのか、その理由をワークシートに記入する。</p> <p>・石原派、石橋派のどちらを指示するか立場を明確にし、二手に分かれミニ討論を行う。</p> <p>指示する理由を発表 相手方に対する質問とその答え</p> <p>・自由に数人のグループを作り意見交換を行い、反対派を説得させる。</p> <p>5 今後、日本が進むべき道を考えつつ、本日の授業で分かったことをワークシートにまとめる。</p>	<p>・世界各国の打開策をしっかりと理解させた上で、広大な土地を持たない日本の進むべき道を考えさせる。</p> <p>石原派、石橋派ともにそれぞれの立場になって考えることができたか。(思考)</p> <p>・意見交換時に積極的に参加できない生徒を支援する。</p> <p>進んで、話し合いに参加できたか。(意欲)</p> <p>世界恐慌に対する各国の政策を踏まえながら、日本が進むべき道を考えることができたか。(理解)</p>	<p>満蒙問題</p> <p>ワークシート</p>